

## ◎ 2008 年海域管理計画定期報告書の概要

この定期報告書は、「知床世界自然遺産地域多利用型統合的・海域管理計画」(2007 年 12 月策定)に基づき、保護管理措置の結果など計画の進捗状況を知床世界自然遺産地域連絡会議及び知床世界自然遺産地域科学委員会に報告するとともに環境省のウェブサイトや関係施設を通じて広く公開し情報の共有を図るため、関係機関がそれぞれ取り組んでいる遺産地域の海洋生態系の保全や安定的な漁業の営みなどに係る各種措置などを取りまとめたものです。

## (1) 海洋環境と低次生産

海洋環境と低次生産について、2007 年度は次のモニタリング・調査が行われました。

- ①オホーツク海南西海域海流観測 (第一管区海上保安庁)
- ②海水観測 (第一管区海上保安庁)
- ③衛星画像による海洋環境の変動の把握 (環境省)
- ④ブイ設置による定点観測 (環境省)
- ⑤海洋環境及び生態系構成種の生物的特性把握調査 (環境省)
- ⑥水中口ポットを用いた生物群集のモニタリング (環境省)
- ⑦深層水調査 (環境省)
- ⑧知床沿岸の浅海域生物相調査 (環境省)

知床半島周辺海域における流氷は、2008 年 1 月 21 日に半島北側に接岸し、4 月 15 日まで周辺海域で流氷が確認されています。

## (2) 沿岸環境

海洋汚染に関するモニタリングは、海上保安庁により次の調査が実施され、その結果は下表のとおりとなっています。

## ①海洋汚染調査報告 (海上保安庁海洋情報部)

## ○オホーツク海域の海水調査結果

(単位:  $\mu\text{g/L}$ )

	平成 18 年(2006)			平成 15, 16, 17 年		
	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値
石油	0.06	0.06	0.07	<0.05	<0.05	0.09
カドミウム	0.031	0.027	0.039	0.020	0.004	0.045
水銀	<0.0005	0.0005	0.0008	0.0006	<0.0005	0.0011

表出典: 海上保安庁海洋情報部「海洋汚染調査報告第 34 号」

## ○オホーツク海域の海底堆積物調査結果

(単位:  $\mu\text{g/g-dry}$ )

	平成 18 年(2006)		平成 15, 16, 17 年	
	最小値	最大値	最小値	最大値
石油	<0.1	1.9	<0.1	8.3
PCB	0.0013	0.0057	0.0003	0.0048
カドミウム	0.009	0.086	0.005	0.100
水銀	0.031	0.060	0.035	0.068
銅	19	34	17	34
亜鉛	51	98	49	96
クロム	130	140	110	150
鉛	14	22	12	22

表出典: 海上保安庁海洋情報部  
「海洋汚染調査報告第 34 号」

過去3カ年と比較すると、表面海水は、すべての項目とも、低い濃度レベルで推移し、海底堆積物についても、ほぼ同じレベルで推移しています。

また、遺産地域内の海域沿岸では、ボランティアなどによる清掃活動が行われています。

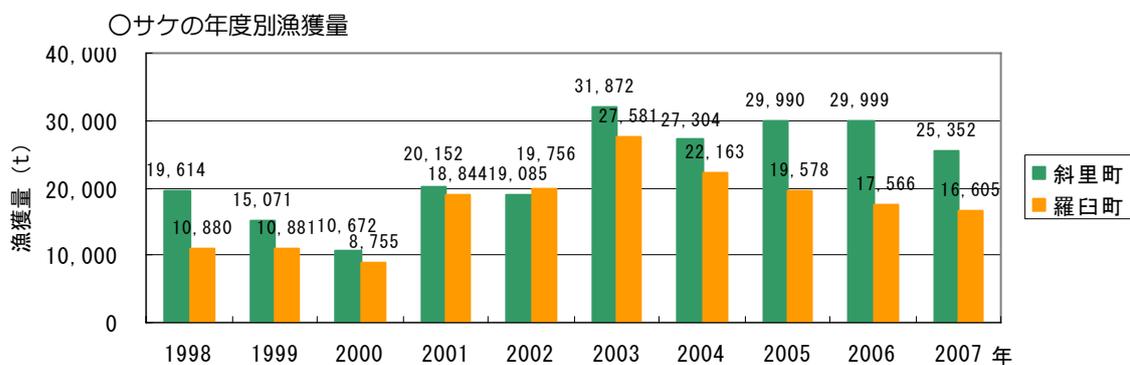
### (3) 魚介類

指標種であるサケ類とスケトウダラに関して、次のモニタリング・調査が行われました。

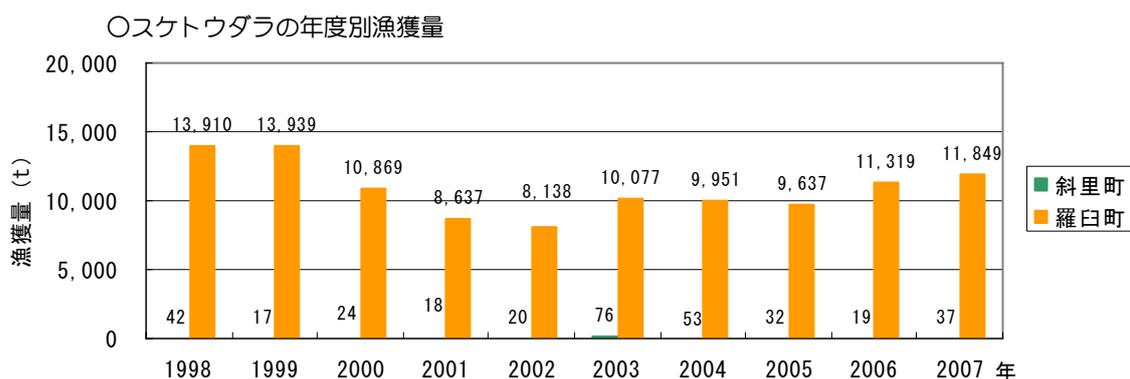
- ①知床サケ科魚類遡上状況調査 (北海道)
- ②北海道水産現勢 (北海道)
- ③河川工作物改良効果把握調査 (北海道森林管理局・北海道)
- ④サケ科魚類による栄養塩輸送に関する調査 (環境省)
- ⑤我が国周辺水域の漁業資源評価 (水産庁)

1998年以降、最もサケの漁獲量が高かったのは、2003年の約31,872トンとなっています。

一方、スケトウダラは、1999年の約13,939トンとなっています。



作図データ出典：北海道水産林務部「平成18年 北海道水産現勢」



作図データ出典：北海道水産林務部「平成18年 北海道水産現勢」

### (4) 海棲ほ乳類

指標種であるトドとアザラシに関して、次の調査が行われました。

- ①トド来遊及び被害実態調査 (北海道)
- ②トド資源調査 (水産庁)
- ③海棲ほ乳類生息状況調査 (北海道)

2004年度より国際資源調査等推進対策事業の中でトドの資源調査が開始されています。その一

環として、独立行政法人水産総合研究センター北海道区水産研究所では、2004年度から資源量推定を目的とした航空機目視調査を開始しました。2005年～2007年の2～4月には北海道日本海(積丹半島から宗谷海峡)の広域調査を実施し、海域によっては沖合域に分布していることも確認され、2004-05年度の結果をもとに我が国に冬期来遊するトドの個体数(沖合を含む)は、6,767頭(3,347頭 - 15,006頭、95%信頼区間)と推定しました。2007年度も調査を継続中です。一方、根室海峡側では2007年1～2月に航空機を用いた調査を行い、沿岸域を中心に最大64+頭の観察がありましたが、沖合での発見は乏しく来遊数の推定には至っていません。

#### (5) 海鳥・海フシ類

指標種である海鳥類(ケイマフリ、ウミウ、オオセグロカモメ)と海フシ類(オオフシ、オジロフシ)に関して、次のモニタリング・調査が行われました。

- ①生息地・営巣地調査 (環境省)
- ②越冬個体数調査 (合同調査グループ)

ケイマフリの海上での分布状況は、海岸線約100m～200mの海岸に最も多く生息していた。ウミウの2007年の営巣数は445巣で、1997年の調査開始以来、比較的少ない調査結果となっています。これまで大きく生息数と繁殖数を変化させていますが、ヒグマの侵入も繁殖地の移動の一因と考えられます。

オオフシは、2月下旬の調査で最大数の1,413羽をカウントしています。  
オジロフシも2月下旬に400羽を数えています。

○2007年ケイマフリ海上センサス結果

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
月日	6/2	6/3	6/4	6/9	6/9	6/10	6/10	6/11	6/13	6/21	6/26	7/2	7/13
羽数	47	71	51	57	81	93	84	23	50	56	46	82	70
	抱卵期											育雛期	

No.	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
月日	7/13	7/15	7/17	7/25	7/27	7/30	7/31	8/1	8/9	8/10	8/12	8/14
羽数	77	31	107	96	68	57	39	31	20	18	1	4
	育雛期									巣立期		

表出典：環境省「平成19年度知床半島における海鳥生息状況調査」

#### (6) 海洋レクリエーション

観光船による海鳥への影響を評価するため、観光船の航路調査が行われました。

- ①観光船調査 (環境省)

ケイマフリ営巣地である象の鼻、岩尾別川右岸断崖、五湖断崖付近の沿岸から100m以内を航行する状況が確認されています。

○往路における場所別の状況

場所	航行船航路	航行速度
プユニ岬付近	沿岸から 100m 以上離れた海上を航行	25～35km/h
フレペの滝付近	湾奥部からは 100m 以上離れているが、東側 (知床岬側)の岸壁には数十 m まで接近	5～15 km/h
象の鼻付近	沿岸から数十 m～150m 付近を航行	30～35 km/h
岩尾別川右岸断崖付近	沿岸から数十 m～200m 付近を航行	20～35 km/h
五湖断崖付近	沿岸から 100m 以内を航行	30～35 km/h、10km/h

表出典：環境省「平成 19(2007)年度 国立公園等民間活用特定自然環境保全活動(グリーンワーカー)事業(知床世界遺産地域における利用の適正化と野生動物との共生推進事業)報告書」

(7) その他

「2007 年 5 月の日露外相会談において、北方四島を含む日露の隣接地域での協力に係る両国の専門家会合開催について合意され、2009 年 3 月には、札幌市において日露協力シンポジウムが開催されました。

まとめ

知床地域内の海域では、関係する行政機関や漁業協同組合などの関係団体及び試験研究機関等の相互の密接な連携のもと、海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業の営みを両立するための取組が行われています。

今後も、引き続き調査・モニタリングの実施状況など海域管理計画の推進状況の情報公開と共有化を図っていく予定です。